

# XI-5 百日咳

## 1 概要

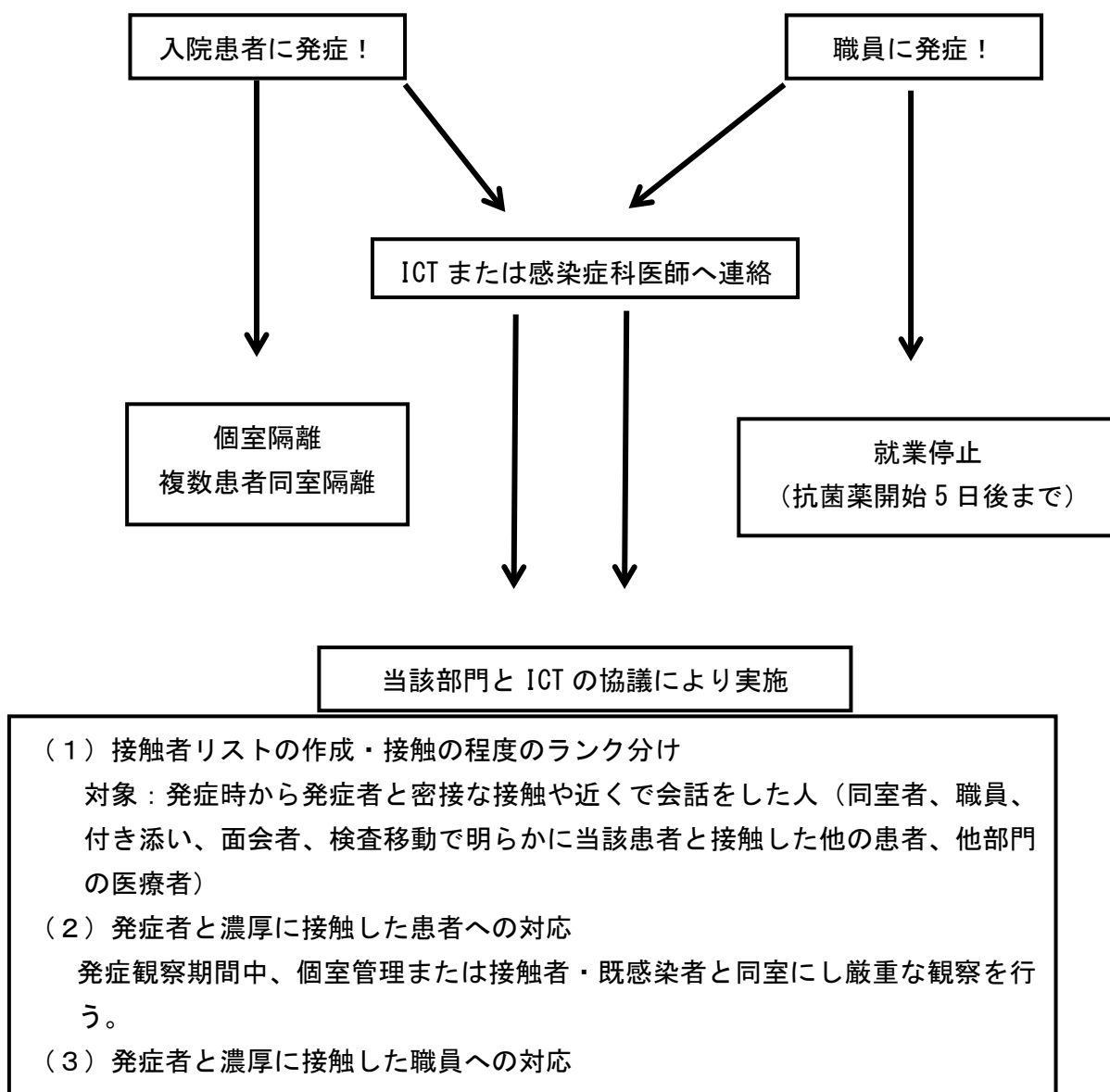
原因	百日咳菌 ( <i>Bordetella pertussis</i> ) による急性呼吸器感染症
感染経路	飛沫感染
潜伏期	3~12 日
症状・ 臨床経過	<p>カタル期 (約 2 週間: 普通の風邪症状で始まり次第に咳嗽が増加する。</p> <p>痙咳期 (約 2-3 週間):</p> <p>夜間に発作性の咳嗽が出現する。短い咳嗽が連続的に起こる。</p> <p>回復期 (約 2-3 週間から):</p> <p>激しい痙咳発作は消失するが、発作性の咳嗽が出る。</p> <p>全経過で 2-3 ヶ月をかけて回復する。</p>
診断	<p>鼻咽頭ぬぐい液の培養・PCR 検査、血清抗体検査</p>
治療	アジスロマイシン、クラリスロマイシン、エリスロマイシン
感染期間	痙咳期が終了するまで

## 2 院内感染対策

飛沫感染予防策を行う。

- ① 個室管理による隔離を行う。
- ② 患者の 1m 以内の作業時や入室時サージカルマスクを着用する。
- ③ 患者の室外への移動は厳しく制限する。  
やむを得ず病室より出る場合はサージカルマスクを着用する。
- ④ 備品を専用化する必要はない。
- ⑤ 百日咳感染症患者同士は同じ病室で良い。

### 3 入院患者・職員に発症した場合



### 4 接触者の発症予防

抗菌薬の予防投与は以下の例に限られる。予防投与は治療と同じ抗菌薬を使用する。

- ・重症百日咳患者との濃厚接触者
- ・重症化の高リスク者  
(生後 12 ヶ月未満の乳児、妊娠第 3 期の妊婦、中等度以上の喘息患者、免疫抑制者)